



観音寺

風情溢れる茅葺きの山門は桐生最古級の建築 「下仁田山」地域の自然と暮らしに溶け込む古刹

桐生市内でも特に古くから織物産業を展開し集落が形成されていた川内町。かつて下仁田山村と称された山田川の中流付近の右岸に位置する観音寺は、市内でも極めて珍しい茅葺屋根の山門を残し、歴史ある川内町を象徴する佇まいを見せている。

創建に関する記録としては、寛永4年（1627）、天台宗の本山である比叡山延暦寺の僧、実呼が当地へ下向した際に荒廃した寺を再興し、翌寛永5年（1628）に、戦国期から江戸初期の天台宗の高僧で江戸幕府の成立に深く関与した天海上人より「不老山薬師院観音寺」の寺名を賜ったという補任状が残る。この時点から約400年の歴史を持つが、境内にある桐生市指定重要文化財の石像多仏塔が永正9年（1512）に制作されていることから、さらに古くより当地に庵があったと見られ、歴史の深さを物語っている。

されている。当初の茅葺きから大正期に銅板へ葺き替えたが、平成10年（1998）に茅葺屋根へ復元。令和6年（2024）には、26年ぶりに茅の葺き替えを行った。見事な職人芸による美しい茅葺きに加え、板幕股形式の飾りや欄間に描かれた極彩色の龍と虎など、芸術的にも興味の尽きない建築だ。

境内の枝垂桜や紅葉も季節感を演出。「桜を見る会」「紅葉の会」といった催しを開催し、地域に広く親しまれている。「当山の鐘が朝の支度や子どもたちの帰宅時間の合図にもなっている」と角田興憲住職が話すように、緑豊かな自然とともに周囲の暮らしに溶け込み、日常の営みを穏やかに見守り続けている。



【観音寺】

●住所／桐生市川内町5-584
●電話／0277-65-9208